

眺望

PROSPECTS

熊本県工業連合会

会長 宮村 宜明



熊本県製造業の更なる発展のために

TSMCの熊本進出が正式に決まったのは2021年秋でした。翌年4月に着工しわずか1年8カ月で工場が完成、2024年12月に本格稼働が始まりました。

現時点での私の認識としては、県内企業に対しTSMC進出に伴うインフラ・物流・サービスの波及効果は徐々に出てきているものの、渋滞問題、地価高騰、人材確保難などマイナス面も大きいように感じます。また、直接製造にかかわるような受注機会はほぼ望めないということもわかってきました。

しかし第2工場の着工が目前に迫った今、台湾企業のみならず海外企業の本格的な進出は今後ますます増えていくと考えられます。地場企業にとっては半導体関連に限らず様々な分野で海外企業とのビジネスを展開する絶好の機会ではないでしょうか。現に私の会社でも地元の銀行から紹介をいただき、2つの台湾企業に見積もりを提出する機会を得ることができました。

しかしながら、その中で衝撃を受けたことがあります。結果2社とも受注には繋がらなかったのですが、そのうちの1社に提出した見積金額の半値で作る会社が台湾にあると言われたのです。材料費で考えていた金額とほぼ同じ金額です。それが事実か否かはわかりませんが、少なくとも台湾企業にコストでは太刀打ちできないのではないかと感じた出来事でした。いずれにせよ熊本のグローバル化は急速に進んでいくと考えられます。海外企業とお付き合いするためには、コストだけでなく、納期や品質の向上、的確なニーズ把握、システムやサービスの質のさらなる向上、海外企業の商習慣の学習といったことが必要になりそうです。

海外企業の熊本進出は事業多角化や受注拡大のチャンスである半面、人材確保や受注競争などで競合となり得る諸刃の剣であることも事実だと思えます。

人材確保に向けては、高校、大学等に半導体人材育成のための新しい学科や学部が創設されています。地元に残り地域産業発展に寄与してもらえればこんなに喜ばしいことはないのですが、ほとんどの学生が外国企業や誘致企業に就職していくようなことになると地場企業にとっては大きな問題です。そのようなことにならないよう地場企業でも採用につながるような活動、発信をしていかなければならないと思います。

先日参加した熊本県立大学の黒田理事長の講演で「半導体工場はお金があれば誘致できるものではない。もちろん熊本には恵まれた水、安定した電力があることも選ばれた大きな理由だが、やはりその地に関連する企業群があるか、サプライチェーンの構築ができるか否か、これがいちばん重要なのです」と聞きました。

TSMC進出をきっかけに半導体を中心に新しい加工技術やサービスの必要性は増すと考えられます。このようなニーズに対応すべく工業連合会としても半導体部会を中心に新しい事業活動を行っていきたいと考えています。今こそ産学官金で緊密に連携しこの100年に一度と言われるチャンスをもものにして地域経済発展を実感できるよう、引き続き工業連合会でも会員企業と一丸となり努力していきたいと思います。